

Buddycomの導入理由

通信機器をよりアップグレードできると感じたため導入を決定しました

サービス業

映像中継



IP無線にはない機能がたくさんあるため、グループ間のコミュニケーションをアップグレードできていると感じています。

導入にあたり、事務所には幅広い世代の社員がおりますが、使用への抵抗感はありませんでした。

また、QRコードでログインできるのが便利です。名刺サイズのカードにQRコードを印刷し、社員に配布しています。これにより、いつでもどこでもパスワードを忘れても、Buddycomにログインすることができます。

導入当初は現場従業員に10分ほど操作説明を行い、今では全員がスムーズにBuddycomを使うことができます。

グループ会社の社員の理解もあり、グループ会社間のコミュニケーションツールとしての導入もスムーズでした。



高速道路の維持管理で 本部と現場の 情報連携に活用

主な利用シーンとしては以下になります。

- ① 事故・災害時の現場と本部のコミュニケーションとして、現場状況の把握や本部からの指示
- ② 通行止め実施時の先頭固定・後尾警戒車両間の無線指示として利用しており、隊列走行のタイミングや通行止め規制の開始指示、完了連絡など

事故などの頻度はおよそ月1-2回で、毎日Buddycomを使用しているわけではないですが、集中工事やリニューアル工事など、大規模規制実施時に使用頻度が増加します。

集中工事で通行止めを実施する際、本線に規制材を設置するため、2-3台に大型車を並べて低速で走行させ、お客様の車両にもゆっくり走行いただきます。このような通行止め作業を実施にあたり、Buddycomを使って、本部と現場従業員がお互いの位置や作業進捗などを共有し、連携をとっています。

音声に加えて 文字・画像・映像の共有が 可能なため 正確な指示・ 情報連携ができています

電話をかける際の発信する待ち時間が不要なため、ストレスなく連絡することができます。また、複数人が同時に同じ情報を得ることができるため、迅速かつ的確・正確に伝わるコミュニケーションが実現できています。

受信の際は、現在はスマホをポケットに入れ、Bluetoothイヤホンで通話をしています。スマホを取り出す必要がなく、高速道路上の騒音があっても聞き逃すことが少なくなりました。また、Buddycomはバッテリーの消費量が少ないため、強みに感じています。

現場従業員からは、「テキスト化により、聞き逃しを後から振り返ることができ、状況にキャッチアップすることができる」「動画・写真の共有についてもアプリ一つで送受信できるため、複数デバイスを持つ必要がなく、便利である」との声が上がっています。

大きな災害が起きた際は、現場状況の迅速な把握は音声や文章だけでは伝わりにくいこともあるので、Buddycom上で画像・映像共有ができることはとても心強いです。



今後の活用

2024年春の集中工事まではIP無線とBuddycomを併用して試行していましたが、その機能や確実性、通話状況などが信頼できるものと確認できたため、2024年11月の集中工事からは通信手段をBuddycomに一本化しています。

今後は、サービスエリアなどでノベルティや風船を配ったりする交通安全キャンペーンのイベントでの社員間のコミュニケーションを図るツールとしてもBuddycomを活用していきたいと考えています。



株式会社サイエンスアーツ
(東証グロース: 4412)

Service: <https://buddycom.net>

Company: <https://science-arts.com/>

